

宿主植物の種内相互作用が葉の代謝変化を介して スペシャリスト植食者の集中分布を誘導する



大崎 晴菜

Ohsaki Haruna

岩手大学大学院 連合農学研究科
博士後期課程

生物の分布がどのように決まるかを理解することは、生態学研究の重要な目標の一つです。草食動物の分布は植物の密度、即ち餌の量に依存すると考えられていました。本研究では、植物間の相互作用によってもたらされる化学物質の濃度の変化、即ち、餌の質が草食動物の分布に影響を与えることを発見しました。今後は、植物同士の関係を考慮しながら様々な植物と動物の相互作用を捉えることで、植物を餌とする動物の分布を決定する共通のメカニズムを解明することに取り組んでいきます。